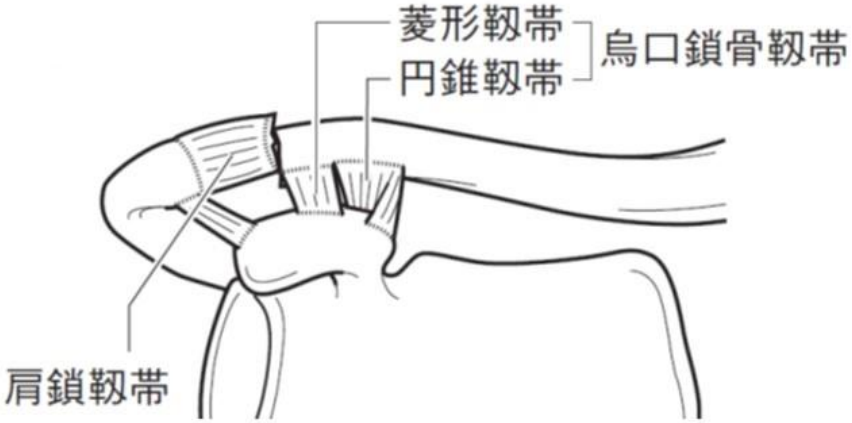
肩鎖関節脱臼（肩鎖靱帯断裂、烏口鎖骨靱帯断裂）について

【肩鎖関節脱臼の病態と治療】

鎖骨と肩甲骨を連結する靱帯には、肩鎖靱帯（肩甲骨の肩峰と鎖骨をつなぐ）や烏口鎖骨靱帯（肩甲骨の烏口突起と鎖骨をつなぎ、菱形靱帯と円錐靱帯で構成される）があります。肩鎖関節脱臼は、外傷などで大きな外力がはたらいた際に、これらの靱帯が断裂することで生じます。

鎖骨と肩甲骨を連結する靱帯

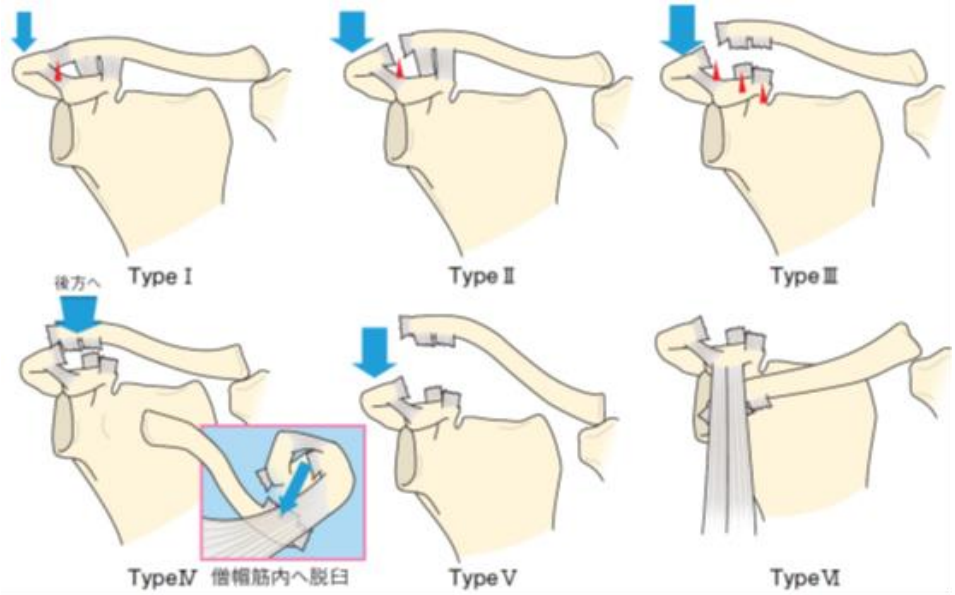


脱臼の程度（分類）により治療方針が決まります。転位が小さければ、保存加療で大きな障害が残る危険性は低く、手術が必要となることもほとんどありません（ただし、肩甲骨烏口突起骨折など隣接部の骨折を合併している場合は、小さな転位でも手術適応となることがあります）。転位が大きい場合は、整容面や筋力の発揮、挙上位での動作に障害が残るおそれがあり、手術を薦めます。

当院では基本的に関節鏡（いわゆる「カメラ」）を用いて手術を行います。受傷からの時間の経過（新鮮例か陳旧例か）によって手術方法が異なり、新鮮例では人工靱帯とエンドボタン、アンカーを用い、陳旧例では靱帯移行（人工靱帯やアンカーを使用）とプレート固定を併用することが多いです。手術を要する場合は、三角筋の損傷（断裂）が高率に生じているため、その処置（縫合）も行います。

浅草病院　整形外科

肩鎖関節脱臼の分類



【術後の経過や回復時期】

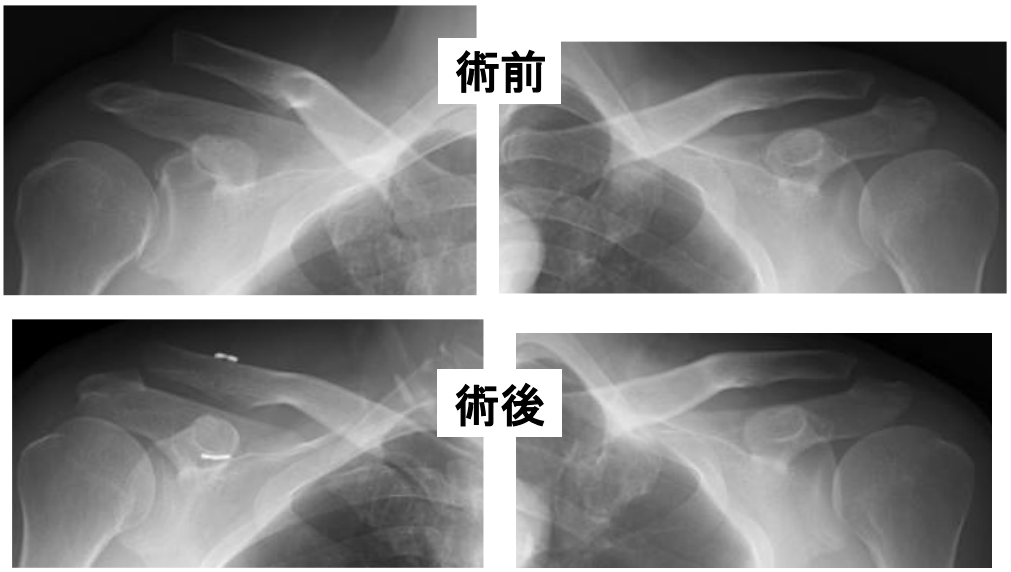
術後は装具または三角巾を 6 週間装着します（着脱は可能です）。リハビリテーションは術翌日から開始します。鎖骨の動き（90° 以上の挙上動作）が許可されるのは、新鮮例で術後 6 週以降となります。陳旧例では、術後 3～4 か月を目途にプレート抜去の手術を行ってからになります。

デスクワークなどの軽作業は術翌日から許可されますが、重労働やスポーツ活動は鎖骨の動きが許可され（新鮮例では術後 6 週以降、陳旧例ではプレート抜去後）、かつ可動域がある程度回復してから（術後 3～5 か月）になります。術後 6～12 か月で左右差なく動作が行えるようになることが目標です。術前の症状は改善することがほとんどですが、最終的に軽度残ることがあります。

浅草病院　整形外科

肩鎖関節脱臼（新鮮例）

右（患側）　　左（健側）



【術前後の合併症】

術前後の合併症には、内科的合併症（血栓症など）、不穏、創部からの感染、アンカーやプレートの脱転、再脱臼、可動域制限（拘縮）、関節の変形、疼痛の残存などがあります。内科的合併症や感染は早急な対応を要します。内科など他科の基礎疾患がある方は、そのコントロールをしっかりと行うことが大切です。

【入院期間】

術後の全身状態、創部の状態、疼痛の管理が安定し、シャワー浴や着脱にも慣れてからの退院（術後数日～1 週）を薦めます。抜糸は術後 10～14 日で行います。抜糸後に退院しても、退院後の外来で抜糸しても、どちらでも構いません。退院時期に関しては、仕事（学業）や家庭の事情は最大限配慮しますので、希望があれば遠慮せず担当医にお伝えください。

浅草病院　整形外科